

インタビュー



平良地区自主防災会
田中 和雄会長

宮田 数行防災部長

Q. イベントを実施していかがでしたか。
(宮田) 今年初めに能登半島地震が発生したこともあり、皆さんの災害や防災への関心は高まっていると感じます。このイベントで、平良市民センターが避難所として開設されたときのイメージをもってもらえたと思います。

Q. 今回のイベントの目的は。
(田中) 地区の皆さんに、避難所にはどのようなものが保管されているのかを知ってもらいたいと思います。「チャレンジ防災in平良 平良地区自主防災イベント」を開催しました。避難所で使用する資機材を見たり、触ったりすることで分かることがあります。このようなイベントは、継続して定期的に行うことが大切だと考えており、今年で3回目の開催となりました。皆さんが参加しやすい基礎的な内容から取り組んでいきたいです。

Q. 今後、地区の皆さんにどのような備えをしてもらいたいですか。
(田中) 平良地区は南北に広く、さまざまな地形、特色があるので、ハザードマップなどで自宅周辺の環境や災害リスクを把握してほしいです。(宮田) 「自分だけは大丈夫」と思わず、災害時は自分の命を守ることを最優先に考え、災害が起きる前に家具の固定をしたり、逃げる場所を決めておくなど、あらかじめ準備をしてほしいと思います。

地区の取り組みを
継続したい

命を守るため
あらかじめ準備を

みんなで 備える

災害から命を守るためには、各家庭での備えに加えて、周りの人と助け合うことも必要です。各地区では、自主防災組織や地域コミュニティを中心に、平時から災害に備えた取り組みを行っています。



防災士 遠藤 聡さん

9月に平良市民センターで実施された「チャレンジ防災in平良 平良地区自主防災イベント」では、災害ボランティアとして、被災地でさまざまな支援活動を行ってきた、防災士の遠藤聡さんから、被災地での活動の経験をもとにした講演を聞き、避難所設営訓練を行いました。



災害時、避難所となる平良市民センターには、段ボールベッド、簡易テント、簡易間仕切りなどが保管されています。参加者同士で相談しながら、実際の災害を想定して、簡易間仕切りの組み立て、マンホールトイレの設営、防災備蓄食糧の試食を体験しました。

遠藤さんから、被災地での活動の内容や、避難所の実態と課題、避難所環境の改善方法、避難者自身ができること、要配慮者への対応などの話を聞きました。



マンホールの上に簡易なトイレ設備を設置して使用する「マンホールトイレ」を組み立てている様子。



参加者で協力し、防災備蓄食糧を準備しました。



いろいろな種類の防災備蓄食糧を試食しました。

参加者の声



参加した男性

避難所の環境に触れ、防災や災害に関して考える機会は大切。災害が起きたとき、自分自身が避難所に避難をしていなくても、避難所の手伝いに来たい。



参加した親子

実際に被災地に行った人の話を聞いたり、自分で簡易間仕切りを組み立てたりすると、新しい発見があっけおもしろかった。苦手な食材があるので、自分が食べられるものを備蓄食糧として用意したい。